

顕彰状

郝平氏は1959年、中国山東省に生まれ、1982年に北京大学歴史学部を卒業すると同時に、同大学の職員になった。その後、学生部副部長等の職務を経て、1991年にハワイ大学 East-West Center の招聘により渡米し、1995年に同大学大学院修士号を取得して帰国。1995年から母校北京大学の国際部長、学長補佐、教育基金会副理事長を務め、1999年に同大学国際関係学博士号を取得。その後、北京大学副学長、北京外国語大学学長を歴任した。また、2009年より日本の文部科学省副大臣にあたる中華人民共和国教育部副部長を務め、2013年から2015年には国連教育科学文化機関（ユネスコ）総会議長も務めた。

郝氏は長年にわたり中米関係史及び中国近現代史の研究に従事し、中国における社会及び歴史研究に大きな功績を記している。特に氏の主要な研究成果をまとめた著書『孫文革命とアメリカ』では、孫文の唱えた三民主義と、米国第16代大統領エイブラハム・リンカーンの政治思想との関連に焦点を当て、膨大な資料調査・分析を基に孫文の早期思想における米国政治思想の影響を明らかにした。同著書は、その独創性と学術的価値が広く認められ、北京大学出版社、及び米国 Bridge21 Publications からそれぞれ出版され、中国国内外における同分野の学術研究の飛躍的な発展に寄与する学術図書として高く評価されている。

郝氏は学者として、中国における学問の発展に力を注ぐ一方、北京大学副学長や北京外国語大学学長、中華人民共和国教育部副部長として、中国の大学改革・国際化推進に大きく貢献するなど、教育行政面でもその手腕を遺憾なく発揮してきた。さらに、2013年に国連教育科学文化機関（ユネスコ）総会議長に就任して以降は、アフリカにおける貧困の撲滅、女性の地位向上、子供の教育環境の改善にも尽力してきている。とりわけ、文化遺産の保護を巡って、国境を超えた国際的な協力の必要性が世界に認識される中、氏はアジア出身の議長として同地域の世界文化遺産の保護に積極的に取り組み、その着実な成果は氏の業績として高く評価すべきものと認められる。

郝氏はかねてより、早稲田大学との学術・教育交流活動に深い関心を示し、北京大学副学長在任中には、日本と中国の大学間で初となるダブル・ディグリー制度を本学と開設するために奔走し、様々な困難を乗り越えて2004年に実現にこぎつけた。本ダブル・ディグリープログラムは、両大学間の長年に渡る友好関係を一層強化した事実もさることながら、これまでに約300名もの日中双方の優秀な人材を育成し、両国の将来を担う若者を輩出し続け、両国間の学術交流・人的交流の促進に大きく寄与した成果は、まさに特筆すべきである。郝氏の実績によって築かれた本学と北京大学との強固な連携は、日中両国の大学交流のあり方に新たな地平を開くモデルとも評価できよう。

「アジアのリーディング・ユニバーシティ」として、世界へ貢献する大学を目指す本学にとって、最重要パートナーである北京大学との協働が更に深化することを期待される中、中国はもとより世界的レベルで教育改革に尽力されている郝氏に対し、名誉博士の称号を贈呈することは、まことに時宜を得たものというべきである。

ここに早稲田大学は、郝平氏に
名誉博士（Honorary Doctor of Laws）の学位を贈ることとした。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!)

2016年9月24日

早稲田大学